

10月の台風に備える農作物等の技術対策

農業技術情報（第4号）

10月8日現在、台風14号は発達を続けながら北上し、10日に京都府に接近すると予測されています。さらに、今後も台風の発生・接近により大雨・強風となる可能性がありますので、以下を参考にして十分な対策を講じてください。

1 水 稲

(1) 通過前

- ①既に刈取適期になっているものは、速やかに刈り取る。
- ②用排水路が土砂等で埋まったり決壊しないように、事前に点検・整備を行う。

(2) 通過後

- ①収穫前のほ場で滞水している場合は、速やかに排水を行う。
- ②成熟期に達し倒伏した稲はできるだけ早く刈り取り、品質低下の防止に努める。
- ③収穫までに日数がある場合は、倒伏した稲を無理に起こすことで、さらに被害を大きくする恐れがあるため、穂を茎葉の上に乗せる。株際を調べ、折損していないようであれば、5～6株ずつ緩く束ねて、立て寄せてもよい。

2 豆 類

(1) 通過前

- ①豆類は湿害に弱いため、排水路、排水口等の点検を行い滞水を発生させないようにする。
- ②黒大豆は、支柱・ビニールひも等による倒伏防止対策を行う。

(2) 通過後

- ①黒大豆・小豆では、倒伏して茎や莢が地面についていると腐敗するので、その部分を直ちに起こす。その後、腐敗防止のため、殺菌剤の散布を行う。
- ②浸冠水した場合は速やかにほ場の排水を図り、病虫害防除を行う。特に、小豆については茎疫病の防除のため殺菌剤の散布を行う。なお、収穫時期が近づいているものについては、収穫前日数に留意する。

3 野菜、花き

(1) 通過前

①ハウス栽培

「園芸ハウス台風対策マニュアル(2019年3月作成)」を参考に対策を実施する。

重点的には、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材の破損部を補強し、しっかりと閉めきる。資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して締め直し、サイドが風であおられないよう固定する。

また、猛烈な強風によりパイプハウスの倒壊などの被害が予想される場合は、あらかじめ被覆資材の除去等により、パイプ、骨材の損壊防止を最小限に食い止めることも検討する。

②露地栽培

支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかり固定する。直播きでまだ生育初期のものは、べたがけ資材等で茎葉を押さえる。その際、べたがけ資材は風にあおられないようにしっかり固定する。また、ほ場が冠水しないよう、排水路を整備する。

(2) 通過後

- ①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ②液肥（500～1,000倍）を施用し、草勢の早期回復を図る。
- ③風雨による傷から病原菌が侵入し、病害の発生が予想されるため、こまめに観察し、発生初期に防除を行う。
- ④収穫可能なものは速やかに収穫し、また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直しを行う。
- ⑤土砂の流入や作土の流出等の被害を受けた場合は、排水後、異物や被害作物等を片付けるとともに、土壌が固まらない程度に乾いたときに耕うんし、通気性を高め、以降に作付けする作物が安定して栽培できるように努める。

4 果 樹

(1) 通過前

- ①収穫できる樹種（晩生ナシ等）では、できるだけ収穫しておく。
- ②収穫の終了したハウスやトンネルでは、強風に煽られないようビニールを外しておく。
- ③防風ネットは、柱の倒壊を防ぐため、控え線や杭を打って補強する。また、ネットの破れ目を補修しておく。
果樹棚は、周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れないように補強しておく。また、棚の揺れ止め補強を行っておく。
ハウス（雨よけ含む）では、被覆が破れないように、押さえバンドで補強するとともに、ハウスごと飛ばされないように、柱から控え線を張って補強しておく。
- ④棚利用の果樹、特にこれから収穫期となる晩生のナシでは、枝の誘引をしっかりと、枝折れや果実の落下を防ぐ（傷果防止）。
- ⑤徒長枝等はできるだけ整理して風通しを良くしておく。
- ⑥排水対策（明きよ等）をしっかりと行っておく。また、水田転作畑では大雨による周囲からの水の流入を防ぐ対策を、事前に行う。
- ⑦ブドウではべと病、ナシでは黒星病や黒斑病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるため、殺菌剤を散布する。

(2) 通過後

- ①落下した果実は、園外に持ち出して処理する。
- ②骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を塗布する。不完全に折れた場合は枝を固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆う。
- ③冠水した場合は、速やかな排水に努める。

5 茶

(1) 通過前

- ①新植、幼木茶園は、風害を受けやすいので、株元に土寄せを行う。特に、風当たりの強い場所では、杭等に茶樹を結束する。
- ②傾斜地茶園では、浸食防止のため土壌表面のマルチや、周辺排水溝の整備を行う。また、新しく造成した茶園では、降雨量が多いと土壌浸食の恐れがあるため、排水路を整備する。
- ③被覆棚では、ほどけた被覆資材が強風を受けて倒壊する恐れがあるため、被覆資材を支柱等へ確実に結束する。
- ④挿し木床では、トンネルのビニールが強風で飛ばされないよう、杭や紐などで固定するとともに、日よけの被覆資材を開けて、支柱等に結束する。
- ⑤製茶工場では、雨水が浸入しないように十分に点検・対応を行う。

(2) 通過後

- ①茶園が浸水した場合は、速やかに排水を図るとともに、漂着物を除去する。
- ②強風で株元が緩んだ幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。
- ③土砂が流入した場合は速やかに取り除く、また、表土が流亡している場合は早急に土入れを行う。
- ④製茶工場が浸水した後に、機械類に通電を再開する場合には、十分乾燥させた後、使用マニュアル等により手順や注意事項を確認するとともに、漏電やショートに留意した対応を行うこと。また、状況によってはメーカーによる点検を受けるとともに、ヘルメット等を着用して複数で作業をするなど、安全を確保する。
- ⑤強風による付傷がある場合は、赤焼病発生のおそれがあるため、殺菌剤を散布する。

6 農作業機械及び獣害防除柵

(1) 通過前

- ①トラクタ等の機械類の浸水被害を避けるため、事前に避難させておく。

(2) 通過後

- ①トラクタ等の機械類が浸水した場合は、水が引いてもエンジンをかけずに、最寄りの販売店等へ相談する。
- ②獣害防除柵を点検し、倒木や落枝による破損や土砂の流出等による下部のスキ間を速や

かに補修して、動物の侵入を防ぐ。

7 作業者の安全を守る対策

- (1) 人命第一の観点から、ほ場の見回り等については、気象情報を十分に確認し、大雨や強風の通過時は行わない。
- (2) 大雨等が通過した後の見回りにおいても、増水した水路その他の危険な場所には近づかず、足下等、ほ場周辺の安全に十分に注意し、転落、滑落事故に遭わないよう慎重に行う。